**令和６年度第３回すみだタウンミーティング　議事録（要約）**

■区長挨拶

１２月に入って寒さも増し風邪等も流行っている中で、皆さんには本日のタウンミーティングに参加していただき、まずは御礼を申し上げたい。

　また、企画運営委員の６人には、今日のこの企画をしっかりと作り上げていただき、私が大事にしている「地域力」をテーマに企画をしていただけたということで、大変感謝したい。皆が一生懸命企画してくれたので、ぜひ皆様方の積極的なご意見をいただいて、その中から今後の墨田区の原動力となる地域力や、区政に対するヒントやアイディアをいただけたらと思う。それが、私が目指しているいつものタウンミーティングである。

　これからの世の中では様々な動き、急激な変化があって、今後日本の社会や墨田区では、予測を超えた様々なことが起きてしまう可能性をはらんでいる。そんな中、どのように区民と一緒になって区を運営していくのかということは、不安もあるが非常に大事なテーマであると思う。私は、普遍的な力というのは、地域の力だと思っている。それは、下町である墨田区の伝統、助け合い・支え合いの心、そして、何かがあったときに皆で一緒になってこの区を盛り上げていったり、何か手伝うよという優しい人たちがいたり、時には何か悪いことをすると、「何やってんだ、こら」って言う怖いおじさんがいたり、これは、世の中がどのように変化しようと、大事な力であるといつも思っている。そんな中、これから墨田区が進んでいく上で皆さんが考える地域の力、そしていろんなやり方とかアイディアを、ぜひいただけたらと思う。

　私も各グループに参加させていただくので、遠慮なく、いろんなご意見をいただくことをお願いして、冒頭ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

■「地域力」の定義について

委員：私は、普段は墨田区で開催されるイベントのちらしの作成等、デザインで区とつながりを作るような取組をしている学生である。今日はこのテーマに決めた理由を皆さんにお伝えできるように精いっぱいプレゼンさせていただく。

　プレゼンの流れとして、まず「地域力日本一」のため最終的に目指すゴール、次に、そのゴールを目指すためにどんなところに課題があるか、最後に、今日のタウンミーティングではどこを目指すのかの３点についてお話しする。

　まず、最終的に目指すゴールについて。今日のテーマは、区長が思いつかないような地域力が上がる、そんな企画を考えるタウンミーティングである。私たちが着目したのは、この「地域力」という言葉の定義である。私たちの大好きな山本区長が地域力向上に力を入れたいと常々おっしゃっているが、私たちはこの地域力という言葉を分解して、ゴールを考えた。では、地域力を上げた先にどんなまちにしたいか。企画運営委員のメンバーで議論した結果、私たちは「住み続けたいまち」、そんな墨田区を作りたいと考えた。また、「住み続けたいまち」をさらに掘り下げて考えた結果、先ほど山本区長がおっしゃったとおり、やりたいことを応援し合える、困ったときに支え合えるまちという結論となった。プラスとマイナス、どちらの状況であったとしても、助け合える、支え合えるということを、住み続けたいまち墨田区のゴールとして、私たちは定義することとした。

　次に、そのゴールに対して、今の墨田区における地域力の課題は何かということを考えたところ、墨田区との関わりが「どっぷり」の方と「ちょっぴり」の方に距離があるという課題があった。ちょっと不思議な単語を並べさせていただいたが、私は「ちょっぴり」の立場である。私は他区で生まれ育ち、大学生になって初めて、大学がある墨田区にやって来た。墨田区のイベントに初めて参加したのは、過去に開催されたタウンミーティングで、友人に誘われたことがきっかけだった。それ以来、地域の皆さんと一緒に活動をさせていただき、そこでようやく地域の魅力を知ることができたという経緯がある。墨田区に通学していたとしても、地域に関わるのは実はとてもハードルが高いというのが実情であると思う。墨田区の皆さんは非常に熱量が高く、つながりが深いからこそ、そこには、通勤・通学等のみでかかわりの薄い「ちょっぴり」が入りにくいのではないかということを課題にさせていただいた。

　では、どうしたらその「ちょっぴり」と「どっぷり」に距離があったとしても、最終的に支え合い・助け合いを実現できるのかというところを考えた。協力し合えることはもちろん、前提として仲良くなるということ、共用の設備を大切にすることも重要である等の意見があったが、様々な角度の意見が出すぎて、まとめ方が難しかった。そんな中、私たちが発見したのが、地域力の向上にはレベルがあるのかもしれないということである。最終的に助け合い・支え合いをレベル４とし、これを実現するために、その前にレベル１～３の３つの段階があると考えた。まずお互いの顔や名前を知らないと、支え合い・助け合いは難しい。そこで、レベル１としてまず顔と名前を知って、次にレベル２としてどちらかが相手の趣味等に踏み込んで、その後に、最近どんなことを頑張っているのか、何かやりたいことはあるのか、といった立ち話をするというレベル３を経て、ようやくレベル４にいけるんじゃないかと。この間にも段階はあると思うが、大きく分けてこの４つになると考えた。今日のタウンミーティングでは、レベル３→４のシミュレーションとして、アイスブレイクでレベル３までぐっと踏み込んで、また会ったときに立ち話をするような関係まで築いていただきたいと思う。レベル４については、今日すぐに実現することは難しいが、私たちがまた次に出会ったときに、こんなことができたら素敵だな、こんなことができたらワクワクするなというような企画、ここにいる私たちだからこそできる企画を提案していただきたいと考えている。

したがって、今日のゴールは助け合い・支え合いの体験ワークとして、区長が思いつかないような地域力が上がる企画を考えていければと思う。

■区長自己紹介：

①呼ばれたい名前

街の先輩方からは亨とか、亨ちゃんと呼ばれている。私は63歳になるので、今日参加している10代の人が僕を亨ちゃんと呼ぶのはなかなか難しいかもしれないが、亨さんとか、亨ちゃんという呼び方は、墨田区に生まれ育って63年、結構しっくりきている。そういう呼び方がいいのかなと思う。しかし、最近は区長と呼ばれることが多い。

②すみだとの関わり（どっぷりorちょっぴり）

　私はどっぷりすみだの人間である。向島で生まれて63年間、墨田区を出たことがない。住まいも墨田区、仕事も墨田区役所ということで、どっぷり中のどっぷりであると思う。

③いま、１万円があったら何に使うか

　墨田区には美味しいお店がたくさんあるので、例えばお寿司、焼肉、中華料理といったその日食べたいものを、一万円で足りるか分からないが、ぜひ食べ物と飲み物に使いたいと思う。

■グループワーク発表：区長が思いつかないような地域力があがる企画を考えよう！

班ごとに決められたテーマ「教育・こども」「健康・福祉」「防災」「文化・スポーツ」「環境」について、現在の課題と理想の状態を考え、理想に近づくための企画を話し合って提案した。

Ａ班（教育・こども）：課題として、地域交流の場や、子どもと大人が関わる機会が少ないということが挙げられた。そこで、子ども達自身が自分で吸収したり、企画したりすることができることを理想とし、大人も子どもも皆で“自分で”企画を作ること、何年も何年も“時間”を積み重ねることで、子ども達の意欲がもっと出てくるということから、企画名を『アワー・パフォーマンス』にした。

　具体的な例だと、墨田区にたくさんある、子ども会対抗でのワークショップや、子どもと地域の人たちでお祭りをして、子どもが一つ企画をするようなことができたらいい。

Ｂ班（健康・福祉）：まず具体的な課題から挙げていったが、健康習慣仲間が欲しい、障害者の方と触れ合える場、マンションの一人暮らしの高齢者、顔を知らないご近所さんなどが挙げられた。これらを一つの課題にまとめたら、「孤独をなくす」という方向になった。目指すゴールは「みんな違って、みんないい」。この言葉で、「孤独をなくす」社会を作っていきたい。

　具体的な孤独をなくす提案として、老若男女の皆さんがご存知のラジオ体操をもっと活用してはどうか。現状、墨田区のいろんなところでラジオ体操が行われていることを、私は今日初めて知った。なので、例えばラジオ体操マップを作り、もっと大々的に「すみだ体操の日」みたいなものを月一ぐらいで制定し、さらには、運営を高校生リーダー等がやったら盛り上がるのではないか。

例えば高齢者の一人暮らしで引きこもりがちだったり、つながりのない人やいろんな悩みを抱えている人たちに来てもらうために、ただラジオ体操をするのではなく、そこに来るとお風呂券がもらえるとか、炊き出しが食べられるなど、「〇〇が一緒に体験できます」のようなちょっとした体験イベントにできたら盛り上がるのではないか。

Ｃ班（防災）：まず、課題について考えた。実は墨田区はスカイツリーができたこと、半蔵門線ができたことで、新しい人の流入が非常に多くて、ワンルームマンションが増えていて、コミュニケーションの希薄さが、とても進んでしまっているのではないか。

　そこで、町会に入っていない方々にどうしたら町会に興味を持ってもらえるか。そこからじゃないと防災とかコミュニケーション、助け合いが生まれないのではということで、まず課題は地域コミュニケーションの希薄さをどうするかということになった。

　我々が求める理想としては、まず、地域の人が顔見知りになれること。そのための場として、昔から裸の付き合いと言われていた銭湯や、普段はちょっと閉ざされてしまっている町会会館を情報発信・情報収集の場に使ったらどうだろうか。

　町会会館で、例えば地域にいろんな方が住んでいるので、その方の職業を学ぶとか、地域の幼稚園・保育園の絵画展や発表の場など、開放する日を設けて人を集める。そこで月一回、その町会会館に来るとワンコインがもらえ、12か月で地域の何かがもらえるようなものをやってみたら、人が集まる場所になるのではないか。

区長コメント：まず、各グループとも回らせていただいたが、世代を超えて皆さんが真剣に自分達のテーマに向かって、積極的に意見交換をしていただいている姿を見て本当に感動し、今日はとてもありがたいなというのが第一の感想である。

　Ａ班の「子どもと教育」、ここのテーマの中で「アワー・パフォーマンス」というワードが出てきた。企画を皆で自らでして、地域交流・世代交流ができる場が必要。それはすなわち、子ども達のためになり、いい思い出になって、この墨田区で育ってよかったなと思える、そういう企画をやったらどうか、というお話だったと思う。

　参考になったのは、各子ども会が連携しながら対抗戦をするというご提案。同じ学校の子もいれば、違う学校の子もいる中で、交流が結び付きの強さを生むのではないかという、子ども会対抗という新しい発想のご提案があったということを、ぜひ頭に入れていきたい。

またＢ班は「孤独をなくす」という一言。この言葉はすごく心に響くというか、すっと入ってきた。

それから「皆違ってそれでいいんだ」と、これも一つの答えだと思うが、行政も地域も含めて、そこにうまく結び付くような手法を考えましょうということ。

一人暮らしの人や、仲間がいない人、引きこもっている人も含めて、その人たちのためになることをぜひ考えたらどうかということで、これも大きな福祉というテーマの中で、高齢者の課題について非常に言い当てていただいているなと思った。

そのためにはラジオ体操の話があって、ここへ行けばラジオ体操ができることを「どっぷり」の人は分かっているけど、「ちょっぴり」の人やなかなか情報が取れない人は分からないので、そこに来ていただく方法をしっかり考えたらいいのではという、非常に参考になる一つの例だと思う。ラジオ体操に来てもらう方法や周知方法をしっかり考えて、そこにお風呂券や体験イベントを用意するという、もう一つ付加価値を付けて、非常にいいアイディアだと思った。

C班の防災についても、すごく課題を認識していただいて、ぜひ地域が顔見知りになるために、人が集まる場を町会会館や銭湯につくり、そういうところで結び付きを強くしていくことが地域力の向上につながる、おっしゃるとおりである。

墨田区の住民意識調査の中で、区で取り組んでほしい行政課題は何ですかと皆さんに聞くと、防災対策が一番多い。ところが地域の防災訓練に顔を出すと、「どっぷり」の人しかいない。このアンマッチについてちょうど考えていたところである。町会会館や銭湯の活用により、顔見知りになり、その人の職業を知って、そういう中で結び付きが強くなって、防災訓練にも参加してもらえるようなことにつながっていったらいいなと、まさに私も思っている。

区役所として課題解決できていないところをしっかり提案していただき、本当にＡ、Ｂ、Ｃ、素晴らしかった。ありがとうございました。

Ｄ班（文化・スポーツ）：課題は情報を届けたい人に届いていないということ、理想は知識・時間がなかったとしても必要な人に情報が届いているということ。

企画はいろいろ挙がった。観光名所に行ったときにスマホ等に情報がバッと出てくるアプリを作る。公衆トイレで座ったときにドアなどに電子広告があったら絶対目に入ると思うので、そこからイベント等の情報を知る機会を作る。墨田区といえばスカイツリーなので、スカイツリーのライトアップにもイベント情報を入れられると良い。街の掲示板を皆が見るためにも、渋谷や新宿にある電子掲示板のように、すごく目立つデザインにする。

　その中で一つ絞ったのが、墨田区のイベントマッチングアプリを作ろうというもの。文化・スポーツイベントを開催しても、必要な情報が届いてなくて人が集まらないといった問題があったので、各主催団体にイベントの登録をしてもらい、自分が必要な情報を登録しておくとマッチングできるような仕組みを作って、それで必要な情報が欲しい人に届くようにしたらどうか。

　最後に一つ、小学校や中学校で配布される端末に、もともと墨田区のアプリを入れておいておけば、子どもが墨田区の情報を得るきっかけを作れるので良いと思う。

Ｅ班（文化・スポーツ）：課題がいっぱい出てきた。やはり、文化やスポーツが知られていない。もっともっと盛んになるほうがいいのに、もったいない。

例えば「すみだ音頭」があるのに全然知られていない。知らせるようなイベントをもっとやったほうが良いが、どのように開催したらいいのかが分からないので、やり方をもっと教えてほしい。

過去に墨田区で、イベントを作る、立ち上げる、プロデュースする人をレクチャーする、勉強する、イベントプロデューサー講座というものをやっていた。その人たちが、今まさにコーヒーフェスや、ニクオンなどの新しいイベントをどんどん作っているので、もう一回講座を復活させてほしい。

さらに、そういうイベントをやりたいって思っても、どこでやったらいいかわからない。墨田区には、お寺や公園、施設などいっぱいあるので、そういうところを皆で巡る、イベントができる施設を巡るイベントをやる。そしてイベントをどんどん立ち上げて、楽しいイベントが増えれば人が集まって来る。人が集まって来ると、もっともっと訪れたい街、住み続けたい街になってくると思う。

墨田は、ものづくりの墨田と言っていたが、このものづくりの墨田に加えて、イベントのようなことづくりも楽しい墨田にしていきたい。

Ｆ班（環境）：取り上げた課題は畑である。実は墨田区には畑が一個しかないので、そこから畑で何かできたらおもしろいと取り上げた。畑があると土や緑等の自然環境が整うとか、災害、例えば津波や洪水等にも耐性が上がるといったメリットもある。さらに、畑があると他世代と交流する機会にもなる。理想の状態としては、各家庭が畑を持ってプチ農家みたいな役割を果たすとか、公園や学校の一部を利用して畑を作っていくことができると良い。

　具体的なアクションについて、初めにコアのメンバーで、区の方と一般の方でメンバーを組成する。そして区から、畑をやってみたいという方に対して、家庭でもできるプランターや、種や土などを提供してあげる。種については毎年、定期的に届けてあげると継続できるという話も挙がった。

　課題としては、実際住民の皆さんがやりたくなる仕組みが必要であること、もう一つは、そもそも災害で継続するのが難しいというところもあるので、そこに対しても考えている。

　やりたくなる仕組みとしては、例えば墨田区で皆さんが作った野菜が集まる青果店や、皆が作った野菜で料理を出しているレストランがあると、そこに対して販売もできるし、食べられるので、おもしろさもある。

　継続が難しいという点については、SNS担当を作って、栽培している人たちのいろんな情報、こういうふうに育てたらうまくいったよという情報を出したり、旅行へ行く間に水をあげられなくて誰か何とかなりませんかという情報をSNS上でシェアしてレスキューできるようにするとか、そういった形で仕組みを作っていくと、より継続して発展していくのではないか。

　環境というのは絶対に生活に密着するし、お互い、生活が環境であり、環境が生活である。だから生活の中に畑があるというイメージを皆さんの心に想像してみてほしい。どんな毎日になりますか。

区長コメント：まずＤ班の、必要な人に必要な情報が届いてないという、この情報のアンマッチというところ。それからスマホを活用したり、アプリを作ってみたらというご提案。非常に課題を認識し、捉えていただいていると感じる。

　公衆トイレにデジタルサイネージを、例えば座ったら墨田区の魅力が映っているとか、そのぐらい墨田の魅力をいろんなところで発信していった方が良いということ。せっかくある観光資源や文化資源がなかなか届いてないという、その表れだと受けた。そして最終的には墨田の魅力のアプリを作る。それから子ども達がそれを見て育つ。そうするとやっぱり故郷の、墨田区のよさというものを理解しながら大人になっていくという、非常にいい発想、提案だと思う。

　我々としては、例えば街の掲示板もあったり、墨田区の公式ＬＩＮＥも作って流していたり、結構反響はあるが見る人しか見ないという、まさにそのとおり。墨田区のインスタグラムは、２３区の中で一番フォロワーが多くてすごく人気があり、街の魅力や公園の景色、人の賑わい、これを相当レベルで映し出しているが、実は知られていない。ここが多分さっき皆さんがおっしゃるような墨田区の課題だという意味では、もろに言い当てていただいたなと思う。

　必要な人に必要な情報が届くというこの情報のマッチングを、今日のご提案も含めて、どうやったらいいのかということをまた改めて考えていきたい。

　続いてE班の文化・スポーツ。すみだ音頭が知られてないという、「どっぷり」の立場から言うと、ああ、確かにそうだなと思ったし、音楽文化、トリフォニーホールや新日本フィルハーモニー交響楽団、それからスポーツでは、フウガドールすみだや、ボクシングの街墨田とか実はいろいろあるが、多分この中でも、ああ、そうだったの？と感じる人がいらっしゃるという意味では、Ｄ班と同じようになかなか届けられてないんだということを言われたのかなとも思う。

　それから逆に前向きな発想としては、イベントプロデューサー養成講座を復活しようというご提案。これはすごくおもしろくて、多分ここにいる皆さんも墨田区にここで関わり持ったので、小さいイベントや、自分の趣味の仲間を増やすようなもの、大きなイベントの企画など、チャンスがあるけど、やり方やつながり方が分からない。区役所の中には、地域力支援部があり、町会・自治会や地域団体を担当する地域活動推進課、文化振興を担当する文化芸術振興課がある。このセクションは、今みたいな地域の皆さんに「すみだの力応援基金」などを活用いただきイベントを作っていただく。それイコール地域力の向上につながる。そういう人たちを増やしていこうという部署なので、まさにご提案のことづくりの墨田をしっかりと表現できるようなイベントみたいなものを含めて、担い手を作り出していく作業、これは地域力の向上につながるという意味で、大変素晴らしいご提案だったと思う。

F班の環境については、さっき私がグループを回ったときにはいろんな環境の課題があって、例えばごみ問題とか地球温暖化の話をしていたので、そういった話が出るかと思っていたら、畑の話が来たというところが、大変ひねられたチームだなと感動した。

墨田区には、たもんじ交流農園という畑があって、実際に寺島なすという墨田の野菜をＰＲしながら、皆がそこで土をいじくり、そして暑い日も寒い日もそこで皆で時間を一緒にして、寺島なすや他の野菜を作るということを通して、相当レベルなコミュニティが醸成されている。もっとそれが広がっていけばいいなというのは、本当にそう思う。

それから実は墨田区の特徴として、細い路地を歩いていくとその路地や自分の敷地でお花を栽培していたり、街を歩くとそれが花畑になっていたり、墨田のいい特色がる。それこそ隣のおばさんが水をかけてくれていたり、花の育て方を皆でその地域で学んでいたりしている。

それからもう一つ、公園愛護会がとても盛んであるが、130ぐらいある公園の半分以上に愛護会があって、地域の皆さんに公園の花壇をしっかり管理していただけている。

そんな街の特色もあるが、これやっぱり「どっぷり派」がやっているので、やっぱり「ちょっぴり」で実は花に詳しい人、それから生き物、花壇も含めて、そういうものをやってみたい人をうまく募ってマッチングできるような、そういう動き、そのつながりも結構大事だと言っていただけた。

文花の千葉大とｉＵがあるところに、キャンパスコモンという広場と、あずま百樹園というお庭を改装した広場、そしてそのすぐ近くには緑と花の学習園という、花を育てていただくボランティアの人たちを養成するような場所もあるが、これも知られていない。それから押上の「わんぱく天国」という公園では、土がいじくれて、子ども達が田植えを実習する取組も行われていたが、今はそれがなかなかできなくなっているという事情もあるので、畑というテーマでいただいたものにはすごく広がりがあるということを、今感じた。

ぜひそこのコミュニティが充実すると地域力が上がるというところにもつながっていくため、これもまたいいご提案をいただけたと感謝申し上げる。

■区長講評

区長：非常にいいテーマをそれぞれが真剣に考えていただいた。私がコメントしたのはちょっと聞いただけでのコメントなので、本当はもっと深いところで、皆さんがいろんなことを論じていただいたんだなと思う。

　それから何が素晴らしいかと言うと、世代を超えていろんな人、「どっぷり」も「ちょっぴり」も話し合っていただいたが、挙げられた課題が、まさに区政の課題であった。そこを皆に言い当てていただいたというところで、やはりこういう話し合いは貴重だということを改めて感じ、感謝を申し上げたいと思っている。

　それから今日分かったのは、「ちょっぴり」の方達も多分墨田区に愛着を感じていただいていて、その皆さんがまた参画してくれるチャンスも僕らにはあると思う。もっと墨田区ファンになっていただき、「どっぷり」とうまく重なっていただいて、そこから出てくるアイディアというのは多分新しくて、我々はどっぷり過ぎて普段当たり前だと思っていることが、そうじゃないということを感じることができると思うので、ぜひ今日このいい機会をいただいたので、今後も墨田区に関心を持っていただいて、どんな細かいことでも小さいことでも、これを機会に街でこんなことをやってみたいということを、ぜひこれからも伝え続けていただきたい。

墨田ファンになっていただきながら、「どっぷり」と「ちょっぴり」が掛け合わさって、新しい墨田区ができていくように、今日の機会をぜひ意義ある大切なものにしていただきたい。皆にチャンスがあるんだなということを今日感じた。

　本当にいろんなお立場、それぞれの世代の中で、今日こうして皆さんがタウンミーティングに参加をしていただいたということは、改めて御礼を申し上げて、私からの感謝のコメントとさせていただきたい。引き続きよろしくお願いします。ありがとうございました。

最後に、委員の皆さん、素晴らしかったですね。このスライドもすごくよくできていて、それから進め方というのも、この短時間でこれだけ効果のあるお話をいただけるのは、それは皆さんの、参加者の方の努力でもあるんだけど、テーマ設定とそこのスライドから来る分かりやすい進め方は完璧だったと思います。ありがとうございました。